

各業務：院内感染対策室

—概要—

当院では院内感染対策に当たるため、院内感染対策室を設置している。室長は総合内科・感染症内科部長兼感染症センター長の倭が務める。2015年度は、専従の感染管理認定看護師を山内が、深川が副室長兼感染症センター師長を務めることとなった。

感染対策に関する院内の組織は、院内感染対策委員会、院内感染対策チーム (ICT)、院内感染対策ワーキンググループから成り立っている。

院内感染対策の検討・承認を行う院内感染対策委員会は室長が委員長を務め、院長をはじめとする病院幹部、各診療科・部門責任者、各部署の看護師長などで構成されている。

病院長の直接的管理下にある日常業務実践チームであるICTのメンバーは、院内感染対策室長を中心に組織され、医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師により構成されている。2015年度は、外科分野での院内感染対策の強化を図るために外科の今里医師がメンバーに加わる事となった。

部署で院内感染対策の中心的存在として実践や指導にあたるワーキンググループのメンバーは、看護師 (リンクナース)・薬剤師・臨床検査技師・放射線技師・臨床工学技士と他職種により構成され、感染防止に関するさまざまな活動を行っている。活動方針は毎月第1水曜日に行うICT会議で決定し、第2火曜日に開催する院内感染対策ワーキンググループ会議で議論したうえで、最終的に第4月曜日に開催する院内感染対策委員会で報告し、承認を得ている。

ICTラウンドは総合内科・感染症内科医師を中心に、抗菌薬の適正使用に対する介入を目的として行っている。環境ラウンドはICTメンバー・病棟リンクナース・感染管理エキスパートのメンバーで行い、感染の視点から各病棟の環境を調査し問題点の現場へのフィードバックを行っている。環境ラウンドの結果を元に現場で対策の検討を行ってもらい、対策の内容をICTに報告し、次の環境ラウンドで評価を行ってもらった。教育活動としては、年2つのテーマで院内感染対策研修会を行った。e-ラーニングで標準予防策・針刺し・手指衛生・尿道カテーテル管理・静脈カテーテル管理・MRSA対応について研修を行った。さらに手指衛生・静脈カテーテル管理・MRSA対応についてリンクナースを中心に内容の見直しを行った。職員が自分の手洗いを振り返る

事によって職員の手洗いに対する意識を高める事を目的に、蛍光塗料を使用した手洗い検査を行った。サーベイランスに関しては、耐性菌サーベイランス、中心静脈カテーテル関連血流感染サーベイランス (BSI)、手術部位感染サーベイランス (SSI) を行い、結果のフィードバックを行っている。

2015年度は日本環境感染学会総会に1題、日本感染症学会中日本地方会学術集会に1題の演題を発表した。

感染防止対策加算の活動として地域で連携している感染防止対策加算2を取得している4施設と年4回の合同カンファレンスを開催、また感染防止対策加算1取得4施設と互いに医療機関に赴いて、年1回相互に感染対策に係る評価を行った。

—実績—

2015年度 院内感染対策室の活動と担当者

グループ	細目	担当者
サーベイランス	BSI、SSI 針刺し、粘膜汚染	リンクナース 今里 山内
環境ラウンド		リンクナース 倭 藤岡 福岡 泉原 北島 宮本紅 宮本訓 深川 山内
医療材料	新規医療材料の検討	倭 山内
教育	職員に対する教育活動 ・院内感染対策研修会 ・E-ラーニング研修 ・手洗い検査	リンクナース 倭 藤岡 深川 山内
清掃関係	針落下の状況調査、清掃ミーティング	リンクナース 山内
広報	The 院内感染対策 News 発行	深川 山内
耐性菌、抗菌薬 (ICTラウンド)	抗生剤適正使用チェック 医師への指導 サーベイランス	倭 藤岡 須合 福岡 泉原 北島 宮本紅 宮本訓 深川 山内

◆ サーベイランス

【針刺し・粘膜汚染 件数】

	針刺し	粘膜汚染	合計
2015年度	33	22	55

【BSIサーベイランス】

期間	延べ入院患者数	延べ挿入日数	使用比	感染率
2015年4月 ～2015年3月	10,437	612	0.06	3.34

◆ 広報

The院内感染対策News (NO.1～NO.9)発行

◆ ラウンド

【ICTラウンド】

965件 (2015年4月～2016年3月)

◆ 教育

感染症センター運営委員会と合同研修 中東呼吸器症候群 (MERS) ～韓国での感染拡大を受けて～ 出席者 6/8 204人 6/11 148人				
やさしい耐性菌のはなし 出席率 74%				
6/17 (水)	6/25 (木)	6/26 (金)	6/29 (月)	6/30 (火)
7/8 (水)	7/13 (月)	7/24 (金)		
感染を広げないために 出席率 78%				
9/7 (月)	9/8 (火)	9/9 (水)	9/10 (水)	9/11 (金)
9/14 (月)	9/16 (水)	9/17 (木)	10/2 (金)	10/5 (月)

◆ 感染管理加算

【相互査察】

監査施設・査察病院	実施日
監査施設：泉大津市民病院	5/29
査察病院：市立貝塚病院	2/15

【合同カンファレンス】

テーマ	開催日	担当病院
手指衛生遵守率を向上させるための取り組み	6月24日	大阪府立母子保健総合医療センター
耐性菌について	9月18日	当院
泉州感染防止ネットワークにおける耐性菌についての実態調査 ～腸内細菌科細菌を中心に～	11月11日	社会医療法人 生長会 府中病院
薬剤師の役割について	3月15日	当院

◆ 結核関係

1) 結核患者治療成績検討会(コホート検討会)

場所:大阪府泉佐野保健所 2階 多目的室

日時:6月8日(月) 9月14日(月) 12月14日(月)

3月14日(月)

◆ HIV関係

1) 大阪府エイズ対策審議会医療体制推進部会

場所:大阪赤十字会館 4階 401会議室

日時:8月3日(月)

2) 各ブロック都道府県・エイズ治療拠点病院等連絡会議

独立行政法人国立病院機構大阪医療センター

場所:緊急災害医療棟 3階 講堂

日時:1月7日(木)

3) HIV感染者地域医療体制構築事業にかかるエイズ診療

拠点病院と大阪府医師会との連絡会

場所:大阪府医師会館 7階 71会議室

日時:1月30日(土)

—今年度の成果と反省点—

針刺し・粘膜汚染件数では、粘膜汚染は4件の増加が見られた。粘膜汚染については、22件のうち目の粘膜汚染が15件であった。目の粘膜汚染の状況はゴーグルもしくはフェイスシールドを装着していれば防げる状況のものばかりであった。対策として、11月にサージカルマスクに圧着するだけで簡単に装着できるアイガードの導入を行った。院内感染対策研修会では、2回行った研修会の平均出席率は76%であるが、研修に参加する部署が毎回決まっており、最近5年の平均出席率は55～70%前後で推移している。

今年度は、昼間のランチの開始時間を夜勤明けのスタッフが参加しやすいように11時から10時へ変更、研修未受講者に対してDVDレンタル研修を行う事とした。2015年度は、部署限定ではあるが耐性菌のアウトブレイクの事例が数件認められた。臨時ICT会議を行い、環境培養・手指衛生直接観察・関係部署への研修会などの介入を行い、早期に終息を迎えた。全病棟対象に手指衛生の直接観察を行ってみると患者接触前62%、接触後33%であった。手指衛生を行うタイミングは患者ケアを行う場所で発生するにも関わらず、手指消毒剤は病室前にしか設置されていなかったため、必要なタイミングで手指衛生を実施できない環境であった。そのために手指消毒剤の個人持ちの開始に向けて手指消毒剤を見直し、同時にポーチ・リールの導入を行った。

—来年度への抱負—

手指衛生は院内感染対策の基本であるため、病院スタッフが正しい手技とタイミングで行えるようにICTとして介入を行っていく。医療施設では、高頻度に接触する環境表面を管理することが、感染対策上特に重要である。スタッフに環境整備の必要性について意識付けを行う事を目的としてクリーンタイムを実施していく。今年度には、新しく導入した院内感染対策についての評価が行われなかったため、来年度に評価を行い、必要に応じて変更、追加の対策を検討していく。